

主 題：イエスを信じて救われる ②

聖書箇所：マタイ16章25-27節

きょう私たちはマタイ16：25からみことばを学んでまいります。

前回私たちは24節で本物の弟子についてみことばを学びました。

★ 本物の弟子の三つの決心

本物の弟子となるために欠くことのできない三つの大切な決心を我々は見ました。というのは、弟子と呼ばれている者たちの中に、本物の弟子とそうでない弟子が存在していたからです。イエス様は本物の弟子になるためには、どういった決心が必要なのか、どういうことを理解しなければいけないのか、三つの大切なことを教えてくださいました。

1. 自己中心の生活から神中心の生き方へ変わる決心

24節にあるように「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て」なさいと。自己中心の生活から神中心の生き方へと変わる決心です。別のことばで言えば悔い改めです。これまで自分の歩みは間違っていたゆえに正しく主の前を歩んで行きたいと。

2. 主のために喜んで犠牲を払う決心

次に主は「自分の十字架を負」ってと言われました。主に従うということはさまざまな問題が出て来ます。いろいろな摩擦を経験します。主のみことばに喜んで従って行こうとする時に、世の中はあなたを放っておきません。さまざまな形であなたの信仰を弱らせようとする。イエス様は私について来るといっことは大変だ、その覚悟があるかと言われるわけです。

3. 主への服従の決心

そして三つ目に「わたしについて来なさい。」と言われた。主への服従を決心することです。私はあなたに従い続けて行きますという決心です。主の本物の弟子というのは信じることで終わるのではないのです。救いは信じるところで終わらない、クリスチャン生活は信じることで終わるのではなく、始まるのです。主に従い続ける服従の生活の始まりです。我々はよく「イエスを信じる」と言いますが、その信じるということはまさに従うということであるとみことばは教えてくれています。イエス様を信じるというのは非常に漠然としています、イエス様は私について来い、私に従えと言われます。でもその時にはこういった覚悟が必要だと。

私たちはこのメッセージを学んだわけですが、この本物の弟子への招きとも言える主の教えは、初めて出て来た教えではありません。この教えは別の言い方でいえば、あなたは神を第一にしていますか、あなたは神を心から最も愛しますかというメッセージです。旧約聖書の申命記6：5に「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」と、モーセは神のメッセージを語りました。モーセは旧約において神が被造物であるあなたや私に一番望んでおられることは、心を尽くし、あなたの内側のすべてをもって、あなたのすべてをもって、あなたを造ってくださった、あなたを愛して下さっている神を愛しなさいということだと言いました。この世のすべてのものよりもあなた自身よりも私を愛するかと、主は旧約においても問うておられた。

新約でも変わっていません。一人の人物がイエス様のもとにやって来て、「律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」と問いかけました。その時「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛」しなさい、「これがたいせつな第一の戒めです。」とマタイ22：36-38でイエス様は言われました。旧約の時代に生きていようと、新約の時代に生きていようと神様のメッセージは何も変わっていないのです。神様が常に問われているのは、あなたは私を愛するかということです。この世のいかなるものよりも、この世のいかなる物質よりも、あなた自身よりも私を愛するかと。まさにそのことが24節で問われたわけです。自分を愛し、自己中心の生き方から本来の神を中心にした生き方へ変わりなさいと。あなたの罪を悔い改め、何があろうと私について来るか、私に従い続けるかとイエス様は問うてくださったわけです。ですからこの神を第一に愛するということを24節で主はこのようにことばをもって教えてくださった。あなたはどんなものよりも私を愛するか。あなたは私を第一に愛するかと。

だから、イエス様はペテロの行動を批判されたのです。ペテロは16節で「あなたは私をだれと思うか」という問いかけに対して「あなたは、生ける神の御子キリストです。」というすばらしい信仰告白をしました。ところが21節で、これから私はエルサレムに行って長老や祭司長、律法学者たちから苦しみを受け、十字架で死に、そして三日後によみがえるのだという話をイエス様がした時に、22節「ペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。」と、イエス様に忠告を与えるのです。そして23節「しかし、イエスは振り

向いて、ペテロに言われた。『下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。』とペテロが主から責められている様子が出て来ます。

このペテロの問題点は二つあったのです。一つはペテロは神ではなくて自分の考えを優先するのです。23節に「あなたは神のことを思わないで」ということばが出て来ます。この「思う」という動詞は新約聖書の中に26回も出て来るのですが、何かに自分の心を据えるとか、自分の心をある方向に向けて努力をするとか、一心になってとか、それに没頭するという意味を持ったことばを使っています。ペテロは、神様が何を考えておられるとか、神のご計画を一心に考えたのではなくて、自分自身の考えをここで押し進めて行こうとするわけです。彼は関心を神様に向けたのではなくて、人に向けているのです。神のお考えや神のご計画、みこころではなくて、人間的な考えや人間的な希望というものに、彼は心を向けていたのです。神のお考えではなくて自分の考えを優先したことに問題があったのです。

二つ目は主イエス・キリストを神のみこころに逆らわせようとしていたのです。実はイエス様が父なる神のみこころに逆らうようにとペテロは働いたのです。ですから、イエス様は「あなたはわたしの邪魔をするものだ」と言っています。この「邪魔をする」ということばは鳥やけものを捕えるためのわなという意味を持ったことばです。ある英語の聖書ではこれを「つまずき」と訳しています。人に罪を犯させるものや人を罪へと誘惑するもの、そういう意味のことばがここに使われているのです。だからペテロと言わずに「サタン」と呼んだのです。サタンは、人々が神のみこころに従わないように、また人々が神に対して罪を犯すようにと誘惑します。ここでペテロが言ったことはまさにそれだったのです。ペテロは神のみこころが何かを考えるよりも自分の考えを優先しました。そしてイエス・キリストをいさめ始めたのです。同時にペテロがこのようなことを言った、これはまさにイエス様が父なる神のみこころに従わないようにとする誘惑なのです。そこで、イエス様は引き「下がれ。サタン。」と言った。まさに今見て来たことはサタン自身の願望です。すべての被造物、我々人間が、あなたが主のみこころに従わないように、あなたが常に神のみこころではなく自分の考えに基づいて生きて行くようにと。

あのペテロでさえも、この選択において神のことを第一に考えない、そういう失敗を犯したのです。ですからイエス様がこの24節で、私に従う弟子たちというのは、自分中心の生き方ではなくて神中心の生き方だと言ったわけです。ペテロは間違いなく信仰を持っていました。しかし、信仰者でもこのような罪を犯したわけです。神を中心に物事を見るよりも自分の考えを優先してしまう。コロサイ3:2でパウロは、「あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」と言います。まさにそれこそ本当の弟子たちの歩みです。私たちがどう思うではなく、神のみこころが何かです。確かにペテロのように失敗もあります。しかし我々はそういう決心をして、主に従う者として生きて行く者と生まれ変わったのです。

C. 「永遠の備えを為す」 25-27節

さて、きょう我々は25節から見て行くのですが、既にイエス様は私たちに弟子とはどういうものなのか、本当の弟子とはどういう人なのかという話をして、今回三つ目、25-27節には永遠の備えをなすようにというイエス様の教えが出て来ます。悲しいことに日本語の聖書には出ていないのですが、原語にはここに全部説明を現わす接続詞がついています。ですから英語の聖書には必ず“for”という接続詞が最初に出て来ます。25-27節は24節を受けて、24節で話したことをより細かく説明しているからです。ですからここで、本物の弟子になることに関するより細かい三つの説明をイエス様が与えておられるのです。

1. 「永遠のいのちを得る」 25節

一つ目に、永遠のいのちを得ると言うことが書かれています。25節「いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。」とあります。イエス様はここで二種類の人が存在すると言います。一つ目は「いのちを救おうと思う者」です。もう一種類は「わたしのためにいのちを失う者」です。この「わたし」というのは主ご自身のことです。イエス様のために喜んでいのちを失う者です。この二種類の人をここに記しています。

1) 「いのちを救おうと思う者」

まず最初の「いのちを救おうと思う者」、この人の関心はこの世のことにしかないのです。この人の関心はこの世のものに対するものです。あの種まきの話で、四つの土壤に種が蒔かれます。道端、岩地、いばらの中、そして良い地です。その中でいばらの中に蒔かれた種は、「みことばを聞くが、この世の心づかいと富の感わしとがみことばをふさぐ」(マタイ13:22)とあります。この人はクリスチャンではないのですが、この人の特徴は神のおことばを聞くが、この人の関心はみことばよりもこの世の中なのです。ですから「この世の心づかいと富の感わし」にいつも関心がある、まさにそういう人です。神様のことよりもこの世のことに関心があるのです。パウロはピリピ3:19でも「彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。」と言っています。

パウロはすごいことを言うわけです。この人たちの神は自分たちの欲望で、自分たちの欲望を満足させることを生きがいにしてしています。自分の欲を満足させること、自分を満たすこと、自分を楽ませることしか考えていない人たちです。

今私たちが見ている「いのちを救おうと思う」人というのは、神のことなど考えないし、その先のことも考えない、今の時代のことしか考えていないのです。この人は恐らくこの世のことを考え、この世で名を上げること、有名な人になることが最大の関心でしょう。この人の関心はこの世の中でいかに大きな富を得るかです。この世で成功をおさめることしか考えていない。もちろんほかのことも考えていますと言うかもしれない。でも根底にある一番重要な関心はどれだけの富を手にするか、どれだけ人々からうらやまれるような生活をするか、どれだけ大きな家に、どれだけすばらしい物を持ち、そういうことしか考えていない。

おもしろいのは、サタンはそういうものを約束してくれるのです。ちょうど主を誘惑したように、人々にそのような誘惑を与えます。イエス様がサタンからの誘惑を受けた時の話がマタイ4：8-9に出て来ます。三つの誘惑を受けるわけですが、三つ目の誘惑はイエスを高い山の頂に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華、繁栄を見せるのです。世の中のすばらしい外向きの繁栄を見せるのです。そしてサタンは「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」と主に言うわけです。そのことを約束してくれるのです。創造主なる神ではなくて私を信じ、私に従うならば、私はあなたにすばらしい未来を約束しましょうと。あなたはすばらしい富を手にするし、あなたはすばらしい名声を博するかもしれない。私に従い続けるならあなたにこのようなすばらしいものを提供しますと。だから人々は一生懸命そのうそにだまされて、得ることのできない夢を追い続けているわけです。サタンは巧妙です。サタンは常にあなたに隣の芝生を見せるのです。主イエス・キリストを信じていない人たちの生き方を見せて、何とすばらしい生き方をしているのだと、あの人たちの生き方の方があなたの生き方よりもすばらしいではないか。あなたに欠けているのは、あなたの願いのままに、あなたの思いのままに生きることだと。罪を犯すことによって、好きなように生きることによって、あなたは今持っていない本当の満足を得るのだと。サタンはあらゆる方法で皆さんを誘惑し、あのペテロがそうやって大きな罪を犯すように、サタンは平気であなたの心に働いて、主のみこころに従って行かないように、あなたの思いどおりに、あなたが望むように生きたらいいのだと。あなたの好きなように生きればあなたは本当の満足を得ると。神を忘れて背を向けて好きに生きればいいのだと。私たちはそういった感わしにだまされてはいけません。自分中心で自分を一番愛する人、神よりも自分を喜ばせることしか考えない人、その人たちは悲しいことにサタンを愛して、サタンに従っている者たちです。

そういう人々に対する神様の警告があります。

(1)「それを失う」

今見たように「いのちを救おうと思う者はそれを失う」とあります。永遠のいのちを失うと言っているのです。あなたが自分の好きなように、自分の肉の欲するままに、自分の欲望のままに、神を無視して歩むならば、あなたに約束されているのは、まず一つ永遠のいのちを失うことだと。

(2)「永遠の滅び」

それだけではなく、そこには永遠の滅びが待っています。先ほどのピリピ3：19に「彼らの最後は滅び」だと書いてありました。彼らとは欲望を神としている人たちです。この地上のことしか考えていない人たちの話です。今の人生しか考えない、今さえ楽しければそれでいい、そういう人たちの話です。彼らに対する警告は、彼らの最後は滅びです。それは永遠のさばき、永遠の地獄です。「彼らの思いは地上のことだけ」、彼らはこの世のことしか考えていないからです。そしてまさにそういう生き方は、神の敵にふさわしい生き方です。神のことを無視して自分の快樂のままに生きている。自分の思いのままに生きている。地上のことしか考えていない、今しか考えていない人たち。その生き方は神の敵にふさわしい生き方なのです。ヤコブはヤコブ4：4に「世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。」と言っています。神よりもこの世を愛して行く生き方というのは、神の敵としての生き方なのだ。「世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」とヤコブは続けます。だからさばかれると言うのです。あなたがサタンのうそにだまされて、サタンのうそを信じて、サタンの言うとおりに生きているならば、その運命はサタンとともにすることになります。サタンに永遠の地獄が約束されているように、喜んでサタンに従っている神の敵は同じように永遠の地獄にあって、永遠のさばきを受けるのです。だからだまされてはいけませんと言うのです。あなたが考えなければいけないのは今だけではない、その先なのです。そのことについてこの後主は私たちに教えてくださいます。

2)「わたしのためにいのちを失う者」

一種類目の人は、「いのちを救おうと思」っている人の話です。神抜きで永遠のいのちを得ようとしている人、神を横に置いて自分の快樂のままに生きようとしている人、生きている人たちの将来がどうなる

のか、神の警告が記されていました。

二種類目の人たちは、「わたしのためにいのちを失う」人の話です。その話が25節の後半に出て来ました。この人はどういう人かという、我々は24節で見て来ました。主イエス・キリストを心から愛して、この方に喜んで従おうとする人、本物の弟子です。この人は「それを見いだすのです。」、つまり主イエス・キリストを心から信じて、喜んでこの方に従って行く人たちには永遠のいのちが与えられるという約束を主はここでお与えになっている。

非常に大切なところなので整理しておきますと、みことばは私たちに迫害や殉教を受け入れ、それらを耐えることによって救われるのだと教えていません。あなたが一生懸命迫害に耐えたら、結果として救いを与えますと聖書は教えていません。イエスを信じる信仰によって救われるのです。でも私たちはイエス様を信じる信仰において何かをいただけるから信じるというよりも、これが真理だから信じているのです。我々はこうしてみことばを学んで来て、この世のご利益宗教と違うという話をしました。この世は、これをやったら、あなたはこういうものを手に入れることができますと言います。でも我々が考えなければいけないことは、私たちは何かを欲しいからイエス様を信じているのか、イエスがまことの神だから信じているのかです。イエスが備えてくださった救いが本物だから信じているのかです。まことの神である主イエスが人となり、十字架でいのちを捨てて私たちのために罪の完全な赦しを備えてくださった。こうして私にかわって罪のさばきを、呪いを受けてくださった。私の罪に対する父なる神の怒りを、主イエスがかわりに受けてくださった。私たちが信じたのはこれが真理だからです。

◎ 信仰のチェック

さて、皆さんの中にはこの24節のみことばが教える覚悟を知らずに信じたと言う方がおられるかもしれない。そしてこのような24節のみことばを見て、いや私はこんなことを知らずにイエス様を信じる決心をしましたと。そういう人々の中で自分の救いが本物かどうかというのを不安に思っておられる方がいるかもしれません。あなたの救いが本物なのかどうか簡単にチェックすることができます。すべてイエスカノーかです。

① 主を心から第一に愛しているかどうか。

あなたはこの世のいかなるものよりも、あなた自身よりも主を愛しているかどうかです。

② どんな苦しみがあってもこのすばらしい主に従い続けたいと思っているかどうか。

今現在多くの皆さんは信仰の闘いを経験しておられるかもしれない。24節のような厳しいことを言われたら私は信じたくありません、そういう思いではなくて、確かにいろいろなことがあるかもしれない、でもこれが真理だから私は信じよう、そしてこの全能の神が私とともにいてくださり、私を守ってくれる、だからこの方に委ねて行こうという思いを持っておられるかどうかです。

③ この24節のみことばを見て、厳しい、これだったら信仰を捨ててしまおうと思っておられないかどうか。

こうしてご自分の信仰をチェックできます。確かに神様、私はあなたを私以上に愛しています。その決心もその愛も不完全です。そう言っているが、そうでない行動をすることもあります。でも私はあなたを心から愛しています。あなたは神です。私はあなたに従って行きたい。その結果いろいろなことが起こるかもしれない。それでも私はあなたに従って行きたい。その決心をしています。でも時にはぐらつくのです。時には正しくない応答をすることがあるのです。残念ながら私たちはこの地上にあってこの決心において完璧な者にはなれません。でも神様が私たちに問われているのは、あなたはこのような決心をして私について来るかということです。私はそのようにしてイエス様、あなたについて行きたいです。そのような決心をした者たちが弟子だと言うのです。あなたが弱いことは神様はご存じです。でもそれでも私について来るかと言われた。常にそのことをしっかり覚えてください。私たちの決心は不完全でも、ここに言われているように、主が私について来るかと言われた時に、イエス様、私はあなたについて行きます、あなたを何者よりも愛しますと。どんなことがあってもあなたがともにいてくださるから、私はあなたを信じて従って行きますと。もしそれと違う思いを持っているのだしたら、それぞれもう一度しっかりと信仰を吟味しなければいけません。主は、あなたはあらゆるものよりも、そしてあなた自身よりも私を愛するかと問われたのです。

2. 「永遠のいのちを逃さない」 26節

さて、一つ目に私たちが見たのは永遠のいのちを得ることでした。この世のことばかり、この世の富ばかり、関心はそこにしかない。その先のことを全然考えていない。神のことを考えていない。その人には永遠のいのちはないのだという警告を見ました。イエス様は本当の弟子になることに関する説明の二つ目として、26節永遠のいのちを逃さないようにと書いています。

1) 永遠のいのちの価値

26節「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻す

のには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」とあります。まずイエス様は永遠のいのちの価値についてお話しになります。全世界よりもこのいのちははるかに価値があると言っているのです。この世のいかなる富を手に入れたとしても、たとえ全世界を手に入れたとしても、この永遠のいのちには勝らないのです。パウロはそのことをよく理解していました。ですからパウロはピリピ3：8で「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさ（救いのこと）のゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。」と言います。彼にすればこれまで人間の世界にあっては人々からうらやまれていたような、彼の家系や教育、財産、ローマ市民権という特権であったり、こういうすべてのものはもうごみだと言うのです。イエス様を信じる救いの方がはるかに勝っている。どんなに富を持っていても、どんなに学歴があっても、どんなに財産があっても、どんなにすばらしい特権階級にいたとしても、そういったすべてのものはあなたを救ってくれないのです。それらを持っていたパウロ自身が言うのです。救われたことはすばらしい、この救いはすばらし過ぎてほかのものは比較にもならないと。イエス様が言われたのはまさにそのこと、いのちの価値です。

2) 買い戻せない永遠のいのち

そしてその後、買い戻せない永遠のいのちについて話しています。「まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」、つまりそのいのちを失ってしまったら、何をもってしても買い戻すことはできないと言います。言い方をかえれば、その救いのチャンスを逃してしまったら、どんなに悔い改めても、どんなに望んでも救いを与えられることは絶対はないと言っているのです。今確かに神様はすべての罪人に悔い改めを命じておられます。救いを備え、その救いを与えてくださる。でもこれがいつまでも続くではありません。最後の一人が救いに与った時、それで終わります。そして、救いがあることを聞いていたのに、知っていたのにそれを自分の意思で拒んだ者たちには、あなたがいのちを失ったら、何をもってしてもその失った永遠のいのちを買い戻すことはできないと神は警告を与えておられます。

3. 「永遠の備えをする」 27節

イエス様は、本当の弟子たちについて教えてくださいました。本物の弟子たち、永遠のいのちを獲得した者たち、永遠のいのちを逃さない者たちです。もう一つ加えるとしたら、27節に出て来るように、永遠の備えをしている人たちです。ここでイエス様は、永遠の備えについてお話しになっています。

1) 「さばきが訪れる」

「人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。」、まず最初に言われているのは、必ず神によるさばきの日が来るということです。イエス様は確かに救うために来てくださった。しかし次はこの地上に人々の罪をさばくためにやって来られるのです。みことばには、神様のさばきの警告があふれています。ヨハネ12：48に「わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。」とあります。主イエス・キリストを拒んだ人たちには、終わりの日に必ずさばきが下ると約束されています。ヨハネ5：28-29には「：28 ……墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。：29 善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受ける」とあり、ヘブル9：27でも「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」とあります。聖書が私たちに警告していることは、死んで終わるのではなくて、必ずそこに神様のさばきが来るということです。そのことをまず27節の初めでイエス様が言われたのです。

2) 「報いが与えられる」

そして「その時には、おのおのその行ないに応じて報いをします。」とあります。その時には報いが与えられると言うのです。主イエスの弟子でない人々、つまりこの救いに与っていなかった人たちに対する報いと、主の弟子であった者たちに対する報いがあります。

(1) 主イエスの弟子でない人

まず主イエスの弟子でなかった人たちへの報いです。マタイ13：40-42でイエス様は毒麦の話を作りました。「：40 ……毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。：41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、：42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりする」と、二つのことが教えられています。一つは泣くのです。もう一つは歯をきしらせるということです。

この「泣いて」というのは、「泣く」という意味のことばが使われています。なぜ泣いているかという、そこにあってはだれも慰めてくれないからです。そこで「泣いて歯ぎしりする」というのは、地獄での様子です。実はこれはマタイの福音書の中に6回、ルカの福音書13章に1回出て来ます。ルカの福音書13：28では「そこで泣き叫んだり、歯ぎしりしたりするのです。」と記されています。地獄の中で、

多くの人々は悲しみの余り泣き叫んでいます。ある人々は福音のメッセージを聞き、救いのメッセージを聞いていながらその救いのメッセージを信じることがなかった。そしてさばきに遭った時に、その人たちは必死になって神に助けを求めるけれども神様の助けはそこにはないのです。だれかが慰めてくれるかということ、だれも慰めてくれない。よくだれかが「地獄に行こう、友達がいるから。楽しくやろう」と言います。残念ながら聖書はそんなことを言っていない。そこでは友達とわいわい騒ぐなどということは全くできない。そこではもう苦しくて、人々が悲しみの声を上げているのです。どんなに嘆こうと、どんなに叫ぼうと、どんなに助けを求めようと、どんなに悔い改めを叫ぼうと、そこにはもう救いはないのです。その様子がここには記されているのです。「齒ぎしりする」というのは、その痛みにくつと耐えているのです。大変な苦痛がそこにあるからです。ですから地獄にあって、人々は言いようもない悲しみの中で叫び続け、そして、断続的な終わることのない苦しみの中にいるわけです。

なぜこんなことが彼らに起こるのか——。これが神に逆らい続けて来た人々に対するふさわしい報いなのです。造ってくださった神様を無視して好き勝手に生きて、神を崇めるべき人間が神を崇めずに神が忌み嫌うことを平気で選択し、生きて来た。しかもそのような罪を赦すために救い主が来てくださり、いのちを捨ててまで救いを備えてくださったのに、その救いを知っていながら意図的にそれを拒んだ。その人たちにふさわしいのは永遠のさばきです。神様は喜んでそこにみんなを送ろうとしているのではない。もしそうなら救い主を送る必要はなかった。我々がその選択をしているのです。ですからまずみことばは、私たちにそういったことが起こるのだという警告を与えています。この中でもイエス様をお信じになっておられない方がいたら、しかも救いを聞いていて、救いをご自分の意思で拒み続けておられる方がいるなら、覚えなさい、これがあなたの運命だということを。神様はこの警告を与え続けておられる。しかしまだ救いのチャンスが残っているのです。まだあなたはきょうが与えられている。まだあなたの前に救いが備えられている。でもこれを拒み続けるならば、この苦しみの中でなぜ信じなかったのか、なぜ救いを受け入れなかったのかと嘆き続けるのです。

(2) 主イエスの弟子

そして、主に従った者たちにはすばらしい報いが約束されています。主イエスの弟子たちの受ける幾つかの報いがみことばの中に記されていますので、簡単に説明します。

・ 「主に仕える人」 ヨハネ 12 : 26

一つ目はもしあなたが主に仕えるならば、神様はあなたを豊かに祝してくださる。ヨハネ 12 : 26 に「わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。」とあります。ということは、あなたが喜んで主に仕え続けて行かれるならば、神様はあなたに報いてくださる。あなたは家庭にあって、教会にあって、社会にあって、職場にあって、学校にあって、どこにあってもすべてのことを主に仕える者としてするのです。「仕える」というのは、奴隷と主人の関係です。奴隷はその主人のために仕えます。奴隷は主人を喜ばせるために仕えます。ということはあなたも私も日々のすべてのもつて主に喜んでいただくことを願いながら仕えて行くのです。あなたが与えられている家庭における責任も、社会における責任も、教会における責任も、すべてのことを神様に喜んでいただくために喜んでしているのです。その時に主の報いがあると、みことばが約束してくれたのです。主が喜んでくださることを望みながら、願いながらすべてのことをなすのです。

・ 「主のために迫害を受けた人」 マタイ 5 : 11-12

二つ目に、主のために迫害を受けている人々にも約束が与えられています。マタイの福音書の山上の説教の中で、イエス様は、「:11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、……悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいからだ。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」と言われた。あなたがイエス様に従って行かれる時に、あなたの親族や親、友人があなたの信仰に対していろいろなことを言うかもしれない。でもその中であなたがしっかりと主に従い続けて行くなら、主はあなたに報いを与えてくださると。大切なことは、そういったことを口にする人たちが主がそうされているように愛して、彼らに善を施すことです。我々の責任はどんなことを通しても主が喜んでくださることを考えてそれをなして行くことです。私たちが何を思うかではなく、主が喜ばれることを選択するのです。信仰生活においても、いろいろなことを経験する中において、しっかりと主に従って行かれるならば、主のすばらしい祝福があると。

・ 「主の教えに忠実な人」 マタイ 25 : 21

最後、主の教えに忠実な人に対しても神様のすばらしい報いが約束されています。マタイ 25 : 21 で「よくやった。良い忠実なしもべだ。」と主人がお褒めになっているところが出て来ます。「あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」と。

忠実な歩みに対して神様は報いを与えてくださる。主のみことばに従っておられる皆さん、どうぞそのとおり立ち止まらないで、しっかり歩み続けてください。神様はちゃんとあなたを祝してくださる。あなたのその忠実な信仰の歩みに対して、必ずそれを邪魔するあなたの罪が働いて、あなたが主のみことばよりも自分の考えに沿って生きようと誘惑します。でももしあなたが今しているようにみことばに従って行かれるならば、神はちゃんとあなたにすばらしい報いを与えてくださる、それが主の約束です。

*** 注意：動機——「人の称賛を求めるか、主の称賛を求めるか」**

同時に、主の弟子として歩んでおられる皆さんが注意しなければいけないことがあります。それはあなたが人々の称賛と主の称賛、どちらを求めているのかということです。マタイ6章の中にそのことが繰り返されています。「人に見せるために人前で善行をしないように」、「人にほめられたくて会堂や通りで施しを」しないように、「人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈らないようにと。彼らはみんな人からの称賛を得たかったのです。そこでイエス様は、みんなが称賛してくれたのだから、彼らはもう褒美を得ている、報いを得ていると言います。けれども報いはそれだけで、神様からの報いはないと言うのです。でももしあなたが神様の称賛を得たいと思ってやっているならば、あなたが主の前に立つ時に主の称賛があなたに届きます。だからそのために覚えなければいけないのは、「隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださる」ことです。人に知らしめるためにするのではない。だれも見えていなくていいのです。主を愛するがゆえに喜んでやって行くのです。そういう人は我々の群れの中にたくさんおられる。見える働きをする人、見えないところで一生懸命働きをしてくださっている人、主はちゃんとあなたの働きをご存じで、あなたに報いを与えると言われました。

「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」(Iコリント15:58)と。主の弟子たちよ、あなたはこのようなすばらしい永遠のいのちをいただいた者として、主に従うことを決心した者として、しっかりと主に従い続けていきなさい、主に仕え続けて行きなさいと。

主は黙示録22:12に「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」と言われています。その日が来ます。その日までしっかりと主に従い続けることです。あなたは主を心から愛するという決心をしました。何があってもこの方に従い続けるという決心をしました。どうぞ立ち止まらないで歩み続けてください。主はあなたを用いてくださる、主が喜んでくださることを望みながらしっかりと主に仕え続けてください。

まだイエス様を信じておられない方がおられるなら、どうぞ神様の警告をしっかりと受け止めてください。きょう神様はあなたに救いを与えてくださる。あなたは罪の赦しをいただいていますか？あなたはイエスの本当の弟子ですか？きょうあなたはその弟子として生まれ変わることができます。主の救いにこたえて主のもとに出て来ててください。

《考えましょう》

1. どうして「いのちを救おうと思う者」は、「いのちを失う」のでしょうか？
2. どうして「主のためにいのちを失う者」は、「いのちを見出す」のでしょうか？
3. 「まことのいのちを損じた人」は、それを買い戻すことができるのでしょうか？その理由も書いてください。
4. あなたがどのように生きることを、主は望んでおられるのかをお書きください。